

平成十四年度 札幌光星中学校入学試験問題 国語

注意事項

- 一、 試験時間は、四十五分間です。
- 二、 開始の合図により、始めて下さい。
- 三、 印刷が不明な場合のほかは、問題についての質問は受けません。
- 四、 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 五、 試験終了後は、解答用紙回収が終わるまで、席を立たず、静かにしてください。

問題一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

それまでのように、何の疑いもなく科学を信じていることが、僕にはできなくなった。確かに、僕たちのもっている好奇心は大切なものだ。なにかを不思議と感じ、その謎を追究し、研究していくことは人間のいちばん大切な行為の一つだと思う。思うけれど、たくさんのお金を使い、他のものを犠牲にしてまで、それは、するに値することだろうか。

ヨーロッパでできた近代科学というのは、もともとお金や時間に恵まれた人たちや、そういう援助を受けられた人たちが作り出したものだ。その人たちは根っから自然や物事を探求するのが好きで、それがもたなくなって科学ができた。そういう人たちは、「アマチュア」と呼ばれた。今ではアマチュアというと、素人という意味になる。プロに対して、たんなる素人ということ、なんだか軽蔑されているように聞こえる。

でも、アマチュアという言葉のそもそもの意味は、「愛する人」ということだ。自然を、学問を愛する人が、アマチュアなのである。そういう人たちが、自分のお金や、王様とか貴族とかお金持ちに援助してもらったお金で研究をしたことで、科学ができたのである。だから、科学や学問は、そういうふうに、自分の好きなことをできる人が、そのカンシンのおもむくままに発展させたからこそできたとも言える。

いまでも、趣味で鳥を研究したり、虫を調べたりする人たちはたくさんいる。プロの研究者より、そういう人たちのほうがくわしいことも少なくない。そんなふうに、自分にできる範囲で好きなことを研究するのなら、何をやってたっていいのだ。

だが、日本だけでなく、世界でも、「科学者」と呼ばれる人たちの大部分は、大学や研究所にいる。その人たちの研究は、みんなが出す税金で支えられているのだ。みんなの税金を使ってやるのだから、ただ自分の好きなことをやる、というのではなく、ほんとうにみんなが大事だと思うことを研究すべきだし、そういうことにまずお金を使わなければならない。だが、今の科学は、（A）そうなっているだろうか。

今の科学には、ますますお金がかかるようになった。ロケットを打ち上げたり、巨大な実験施設をつくったりするには、莫大なお金がかかる。僕たちの氷河調査隊なんか、そういう巨大科学に比べれば、ほんとうにちっぽけなものだけれど、それだって、自分一人のお金でまかなえるものではない。

なにか新しいことを見つけるための科学には、そうやってお金がかかるのである。けれども、そういうものだけが科学なのだろうか。いろいろなものを発見したり発明したら、それで僕たちは幸福になるのだろうか。けれども、そういうものだけが科学なのだろうか。そうではないはずだ。僕たちがそうやって、いっしょうけんめいに発展させてきた科学は、原子爆弾を産み、フロンをつくり、ダイオキシンをつくった。

みんな、決して悪意でつくったのではない。けれども、結果としてみると、二〇世紀の科学がつくり出したものは、とりわけその最先端の科学がつくり出したもの、ことごとく人類を不幸にしているように見える。

（B）人間には、知的な好奇心があるのだから、それを無理やり止めようとするこのほうが危険なのかもしれない。それよりは自由なほうがいい、と思う。そう思うけれど、現実にはクローン人間をつくる技術や、脳死状態で臓器を移植できる技術が進んできて、どこまでそういうことをやっていいか、という難しい問題が出てきているのである。

いっぽうでは、僕たちは大きな危機に、チヨクメンしている。（C）自然は無限だ、と思ってきたために、僕たちは地球の自然をあまりに壊してしまった。地球の植物が三五億年かかってつくってくれたオゾン層を、一九三〇年代に発明されたフロンガスによってたった六〇年足らずで破壊してしまったのは、その顕著な例である。それだけではない。いまや僕たちが科学の力でつくってきたさまざまな化学物質は、地球上の川や湖や海に流れ込み、そこに生きる魚や貝や虫たちを汚染している。それを食べることで、けっきょくは僕たち自身の体もむしばまれていくのだ。

それにもかかわらず、僕たちは毎日のように、分解できないさまざまなゴミを捨て、さらにこの地球を汚染している。コンピユータも自動車もテレビも冷蔵庫も、次々に新製品が出てきて、より便利に、よりカイテキになると言われるけれど、それを買うためには古い製品を捨てなければならず、捨てたものはほとんどがゴミになるのだ。

僕たちの生活は、ほんとうに豊かなのだろうか？
あくせく働いて、結局はまた新たなゴミを産み出すための買い物物をさせられているだけなのではないだろうか。そして、そうやって科学が進めば進むほど、また新しい問題が起きてくるのではないだろうか。

僕は、そういう今の科学を、「二〇世紀型の科学」と名付けたい。それは科学だけでなく、経済学でも哲学でも同じかもしれない。自然が無限であり、環境はいくら壊しても自然になおるものだ、と人類がまだ信じていた時代の科学や学問。それは、この二〇世紀とともに終わるべき運命にある。いや、現実には、ブレーキをなくした車ののように、科学はますます巨大化し、自分を知りたいことさえわかればいい、と他のことなどおかまいなしにますます進んでいくことだろう。しかし、そうであるならなおのこと、これとはちがった科学、「二一世紀型の科学」を、（D）発展させなければいけないのだ。

それは、僕たちがこの二〇世紀を通じて壊してしまった自然や環境を、できるだけでもとりもどすための科学、環境の科学である。

（小野有五『ヒマラヤで考えたこと』）

問一——線3「カンシン」・5「チヨクメン」・7「カイテキ」を漢字で書きなさい。

問二（A）（D）に入れるのにもっともふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

ア もともと イ いまこそ ウ はたして エ これまで

問三——線1「それは、するに値することだろうか」の「それ」は何を指しますか。本文中から三十字以内でぬき出し、初めと終わりの五字で答えなさい。

問四——線2「自分の好きなこと」と反対の内容を表す語句は何ですか。本文中から十五字以内でぬき出して答えなさい。

問五——線4「みんな、決して悪意でつくったのではない」とありますが、ここでいう「悪意」とはどういうことですか。本文中の語句をもちいて、十五字以内で答えなさい。

問六——線6「いまや」はどこにかかっていますか。もっともふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア つくってきた イ 流れ込み ウ そこに生きる エ 汚染している

問七——線8「二〇世紀型の科学」とはどのような科学だと筆者は述べていますか。次の語句をもちいて、五十字以上六十字以内で答えなさい。

（語句）無限 環境 幸福

問題二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わが国には独特の形式の、五・七・五・七・七の三十一音で作られる短歌があります。五音と七音の組み合わせで表されるのが基本ですが、音数は、いくらか増減があってもかまわないことになっています。短歌は千年以上の音に始まり、奈良時代の終わりごろには（1）という歌集も作られました。明治時代に正岡子規などが近代的な短歌を作るようになり、現代でもさかんに作られています。

短歌は形が短いだけに、洗練された言葉で簡潔に表現され、その中にさまざまな心の世界を描き出します。豊かな表現から、短歌によまれている情景を想像し、作者の思いや感動を読みとることが大切です。

ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

佐々木信綱

作者はこの歌を、まず（2）から歌い出し、（3）という大きな場から（4）にかかっている一片の雲へと、しだいに焦点をしばってゆく方法によって、秋の旅情を歌いました。くり返される「（5）」の音が季節と景色を結んでゆき、（6）調子を生んでいます。

問一（1）に入る歌集名を漢字で答えなさい。

問二（2）に入れるのにもっともふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 季節 イ 景色 ウ 場所 エ 空想

問三（3）（4）に入れるのにもっともふさわしい語句を短歌の中からそれぞれ五字以内でぬき出しなさい。

問四（5）に入れるのにもっともふさわしい語を短歌の中からぬき出しなさい。

問五（6）に入れるのにもっともふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 重々しい イ さびしい ウ 楽しい エ 明るい

問題三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「いいか、オリンピックの飛込みに出場できるのは男女あわせて三人がいいとこだ。そのうちのひとりには兵庫の寺本健一郎に決定だろう。あいつは強い、海外の選手とも互角に戦える日本のエースだ。でも、残りのふたりになろうとするやつらはみんながどっこいどっこいだ。誰がチャンスをつかんだっておかしくない。それに、選考会当日の調子次第でいくらでも雲行きがかわってくる」

「でも、ぼくはそのどっこいどっこいのなかにも入ってないんだし」

「だったら入れ、急いで入れ、まだ間に合う。日本には飛込みをはじめて三年でオリンピックにでた選手もいるんだぞ。おまえは六年目だろう、代表になつて何がおかしい？」

要一は強気に言い切り、「それに」とつけたした。

「それに、おまえにはあの女コーチもいる」

それも気が重い理由のひとつだった。ついさつき、その女コーチが知季に偏った指導をしているとクレームがついた話をきいたばかりじゃないか……。

要一が立ち去ると、知季はくると首をまわしてトレーニングルームを見まわした。中学の体育館よりもひとまわり小さな板張りのスペース。陵とレイジは片隅の陸上板で踏み切りの練習をしている。

六年前、知季とほぼ同時期に飛込みをはじめたレイジと、その半年後に入ってきた陵。あのころはまだたくさん仲間がいて、みんなでわいわい楽しくて、でも、水に体を打ちつけるたびにひとり減り、学校の成績が下がることにふたり減り……とどんどんさびしくなっていく、結局、最後に残った同級生は三人きりだった。

三人いたから、これまで続けてこれたのに。張りあつたり励ましあつたりしながらやってきたのに……。

そう思うと無性にさびしくて、やりきれない。迷ったあげく、知季は思いきってふたりのもとへと歩みよっていった。

「あのだ」

知季が声をかけると、レイジは（A）下をむき、陵は（B）あごを突きあげた。

「前に見せたよね、自主トレのメニュー。おれはただあれを麻木コーチにもらつて、勝手にやれつて言われてるだけだから」

「……………」

「べつに特別あつかいとかされてるわけじゃなくて、それだけなんだよ」

「……それだけ、かよ」

低くうなるような陵の声がした。

「トモにとつてはそれだけでも、自主トレのメニューさえもらつてないおれたちにとつてはそれだけじゃないんだよ」

「……………」

今度は知季が黙りこむ番だった。

「トモはいつもそうだ。去年の関東大会でも、おれやレイジのほうがトモより成績よかつたんだ。でも富士谷コーチはいつもトモのほうを気に入って、要一くんだってトモばかりをかわいがる」

「そんな……」

「でもおれはずっと待ってたんだよね。いつかばりばりの、見る目のあるコーチがやってきて、トモよりおれを選んでくれる。みんなの気づかないおれの才能を引きだしてくれる。そんなのをずっと待ってたんだけどさ、やっと現れたばりばりのコーチは、やっぱりおれよりトモを選んだよ……」

目を赤くした陵の声がふるえた。いばり屋の、プライドの高い陵がここまで本音をさらけだしてくれたのは初めてだった。

「トモ、もういいから」

どうすればいいかわからず立ちつくす知季に、レイジが言った。

「もういいから、トモは麻木コーチとオリンピックをめざしなよ」

それは確かに知季を応援する言葉だった。なのに実際は突き放していた。レイジの冷たい瞳が、ゆがんだ唇が、トモがここにいとつらいからどこかへ行ってくれ、と言っていた。

「わかつた。でもおれ……」

でもおれ、（C）なんて、一度も言ったことないんだけど。

誰かに聞いてほしかった言葉をのみこんで、知季はふたりの前から離れた。そのままトレーニングルームからも離れ、家に帰ってひとり泣いた。

（森 絵都『DIVE!!』）

問一——線1「どっこいどっこいだ」・2「張りあったり」の意味としてもっともふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

1「どっこいどっこいだ」

2「張りあったり」

- ア かなり手ごわいぞ
- イ たいしたことはないよ
- ウ 力を入れてくるぞ
- エ 同じくらいの実力だよ
- ア 競争しあったり
- イ けんかしあったり
- ウ なぐさめあったり
- エ 相談し合ったり

問二——線3「迷ったあげく」とありますが「迷った」原因となったことは何ですか。それを具体的に示す一文を本文中からぬき出し、初めの五字で答えなさい。

問三 (A) (B) に入れるのもっともふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 笑いながら
- イ 挑戦的に
- ウ 気まずそうに
- エ 悲しげに

問四——線4「自主トレのメニューさえもらってないおれたちにとってはそれだけじゃないんだよ」とありますが、この時の陵の気持ちの説明としてもっともふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 知季だけがコーチにかわいがられていることにとっても腹を立てている。
- イ 自分たちはコーチから自主トレのメニューをもらえずがっかりしている。
- ウ 知季の「それだけなんだよ」というなげやりな言葉にあきれかえっている。
- エ 自主トレのメニューを何とかして知季からうばい取ってやるうと意気込んでいる。

問五——線5「見る目のある」とありますが、この場合の「目」の意味と同じ意味で使われている「目」を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 目と鼻の先
- イ 目につく
- ウ 目が高い
- エ 目をかける

問六 (C) に入れるのもっともふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア みんなで協力しよう
- イ 力をつくしてみよう
- ウ 自分が一番じょうず
- エ オリンピックに出たい

問七——線6「家に帰ってひとり泣いた」のはなぜですか。もっともふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア プライドの高い陵が目赤くし、声をふるわせて本音をさらけだすように怒ったから。
- イ 陵とレイジに自分の気持ちをわかってもらえず、返す言葉もなく冷たく突き放されたから。
- ウ コーチたちから特別あつかいされている自分を無性にさびしく感じ、やりきれないから。
- エ 要一やコーチたちが実力もない自分のことを理解せず、色々と世話をやきすぎるから。

問八 本文について述べた四人の感想(ア～エ)の中から、内容に合わないものを一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア Aさん—— 知季、陵、レイジの三人は他の仲間たちが飛込みをやめたけど、練習にたえてがんばったんだね。
- イ Bさん—— だから知季は自分だけがコーチたちから特別あつかいをされるより、三人で楽しく練習したいんだね。
- ウ Cさん—— 陵とレイジは、知季が自分たちの手のとどかないところになってしまったようさびしいんだね。
- エ Dさん—— コーチ達が知季を特別あつかいするのはきつと何か理由があると思うけれど、ここではわからないな。